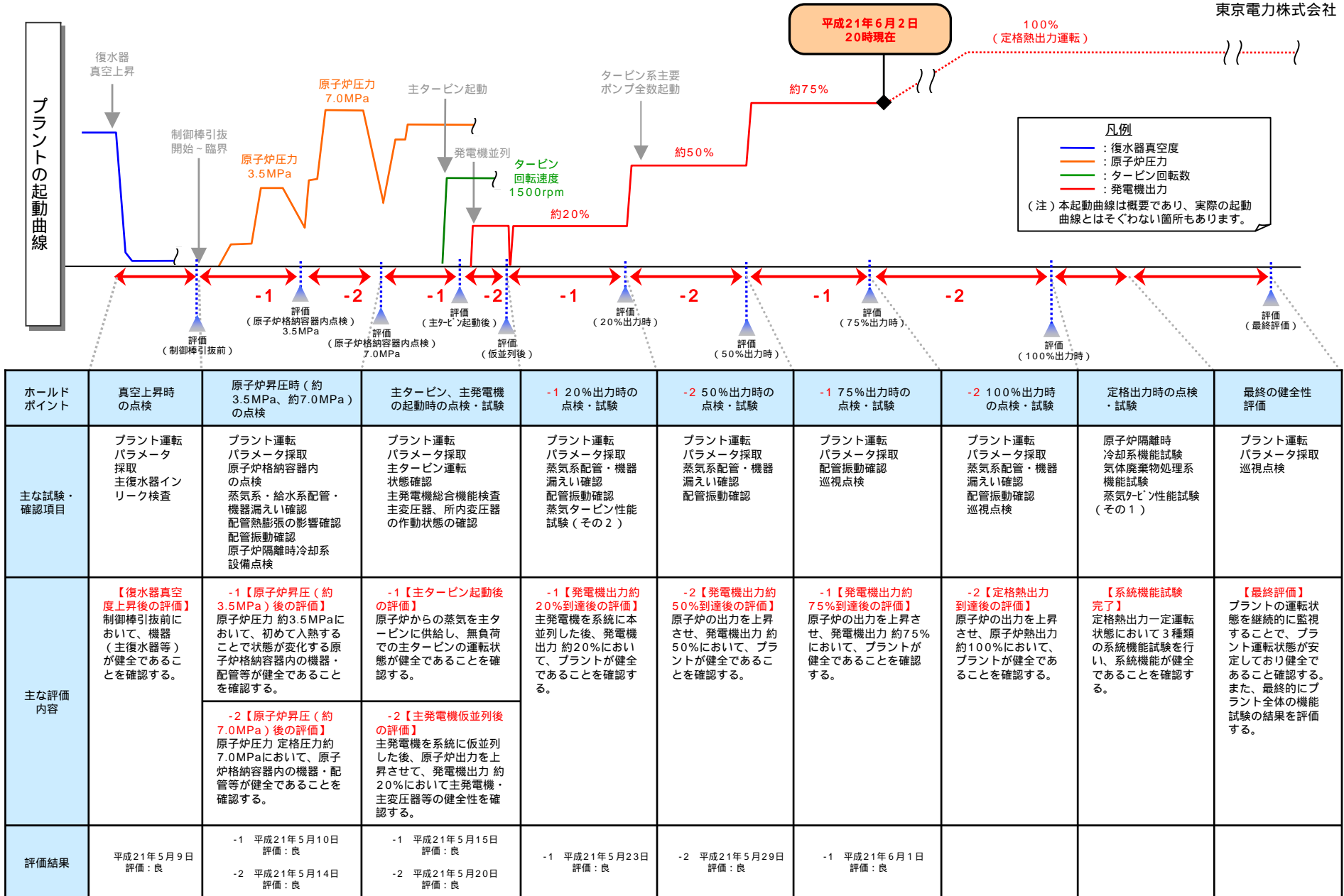


柏崎刈羽原子力発電所7号機 新潟県中越沖地震後のプラント全体の機能試験に係る進捗状況

別紙

平成21年6月2日
東京電力株式会社



凡例
 : 地震後の健全性確認のため、特別に実施する項目
 : 地震後の健全性確認のため、内容・範囲等を追加した項目
 : 通常のプラント起動時にも実施している項目

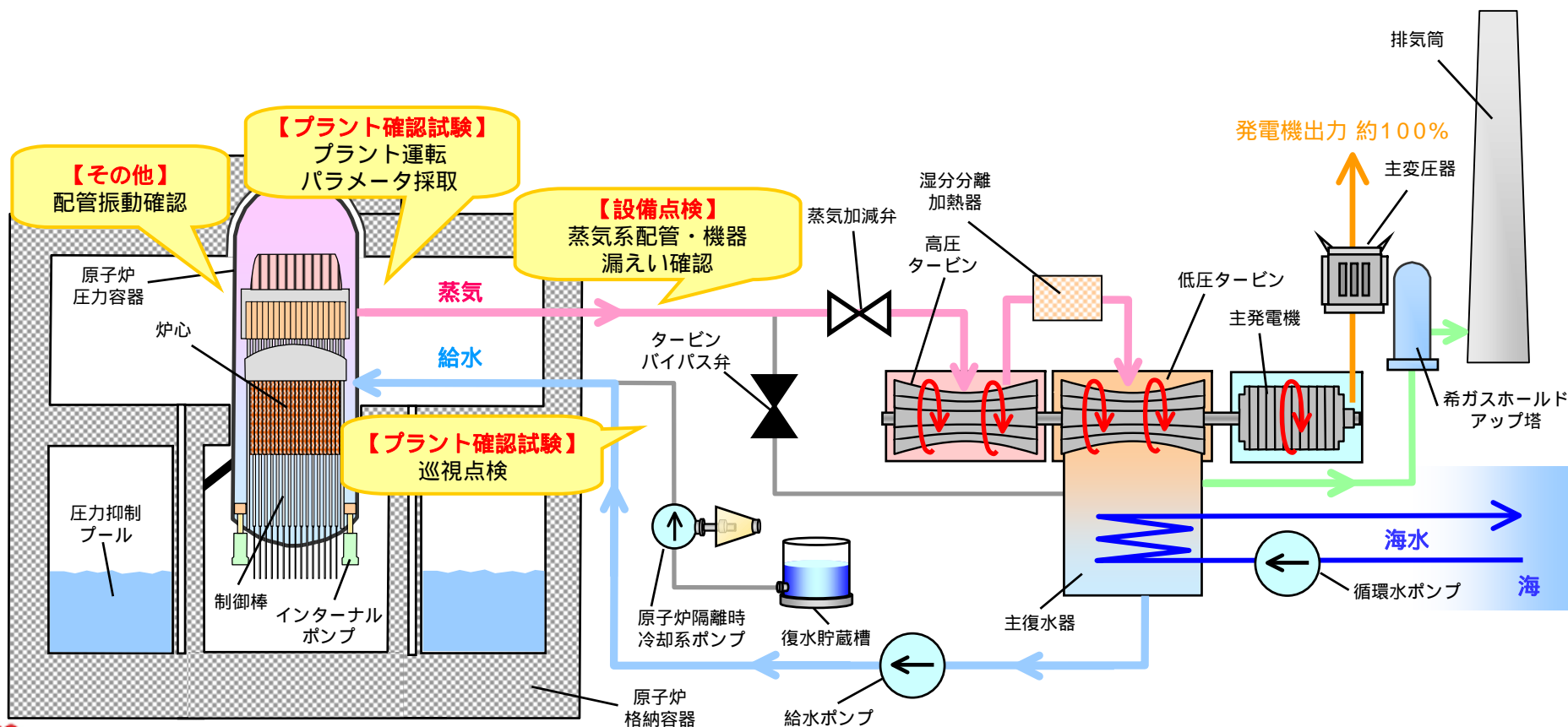
次工程 -2 定格熱出力到達後の評価

< 主な評価内容 >

原子炉の出力を上昇させ、原子炉熱出力 約100%において、プラントが健全であることを確認する。

< 主な試験・確認項目 >

プラント運転パラメータ採取、蒸気系配管・機器漏えい確認、配管振動確認、巡視点検 等



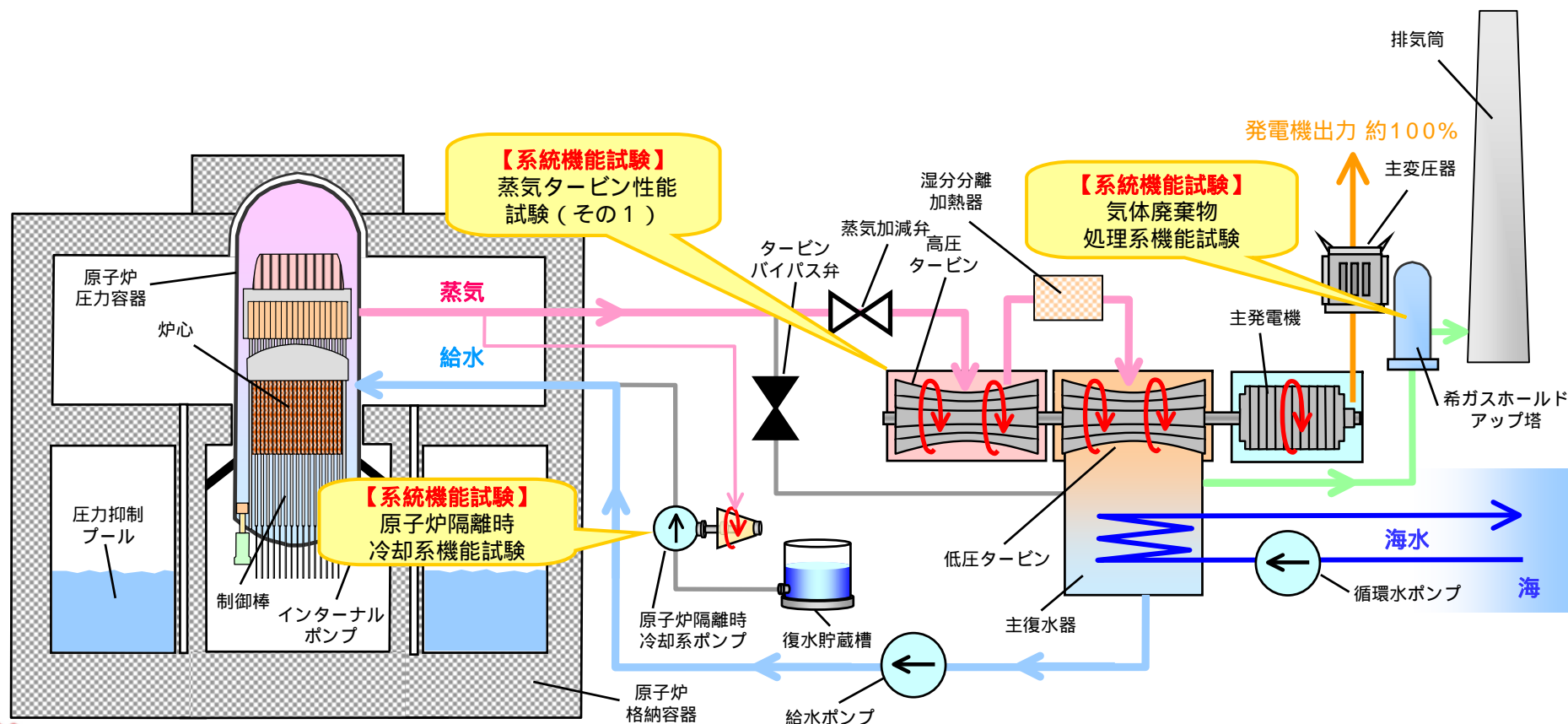
次工程 系統機能試験完了後の報告

< 主な評価内容 >

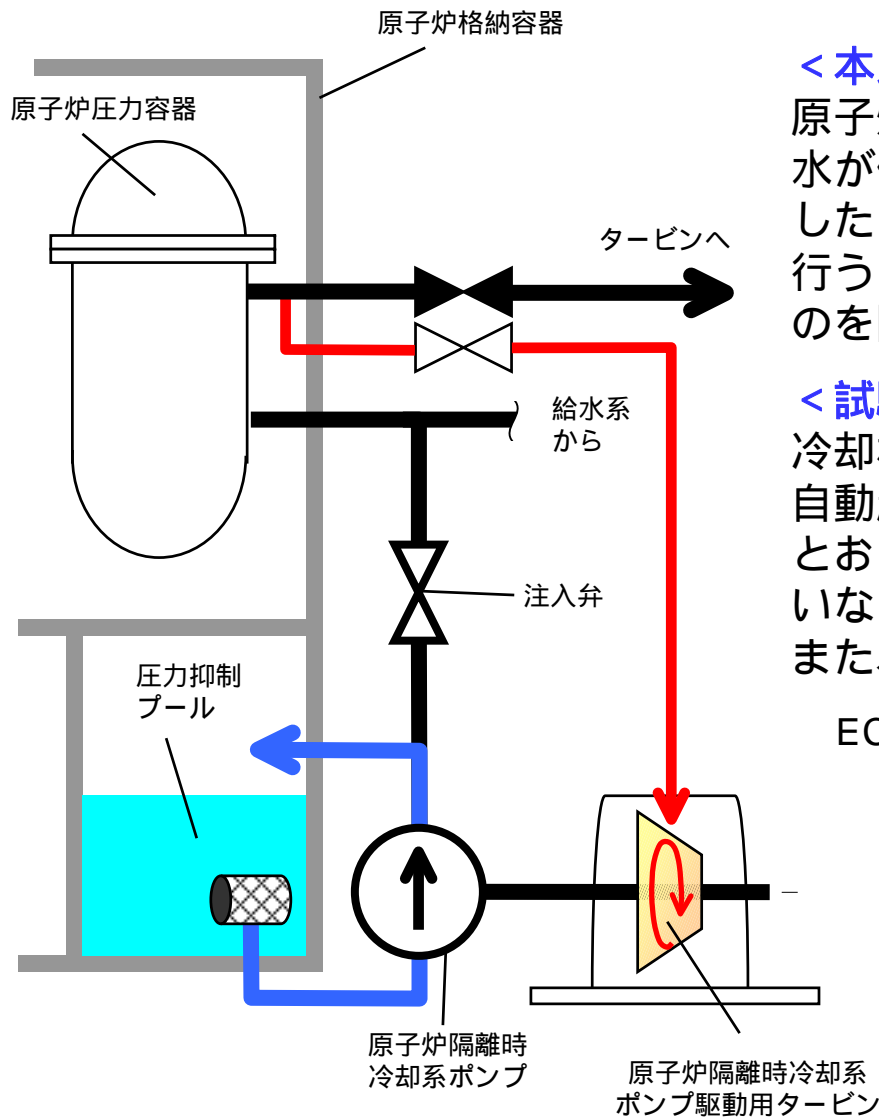
定格熱出力一定運転状態において3種類の系統機能試験を行い、系統機能が健全であることを確認する。

< 主な試験・確認項目 >

原子炉隔離時冷却系機能試験、気体廃棄物処理系機能試験、蒸気タービン性能試験（その1）



次工程 原子炉隔離時冷却系機能試験



<本システムの役割【冷やす】>

原子炉がタービン系から隔離されて給水系からの冷却水が供給されないとき、また、冷却材喪失事故が発生したときに、他のECCSと共に原子炉への注水を行うことにより、燃料が冷却水から露出して破損するのを防止する。

<試験の目的>

冷却材喪失事故信号を模擬し、原子炉隔離時冷却系が自動起動し所定時間内に機能に必要な流量に達することおよび、運転状態に異常（異音・異臭・振動・漏えいなど）が無いことの確認を行う。
また、注入弁が全開することを確認する。

ECCS：非常用炉心冷却系（高压炉心注水系、低压注水系、原子炉隔離時冷却系、自動減圧系）

次工程 気体廃棄物処理系機能試験

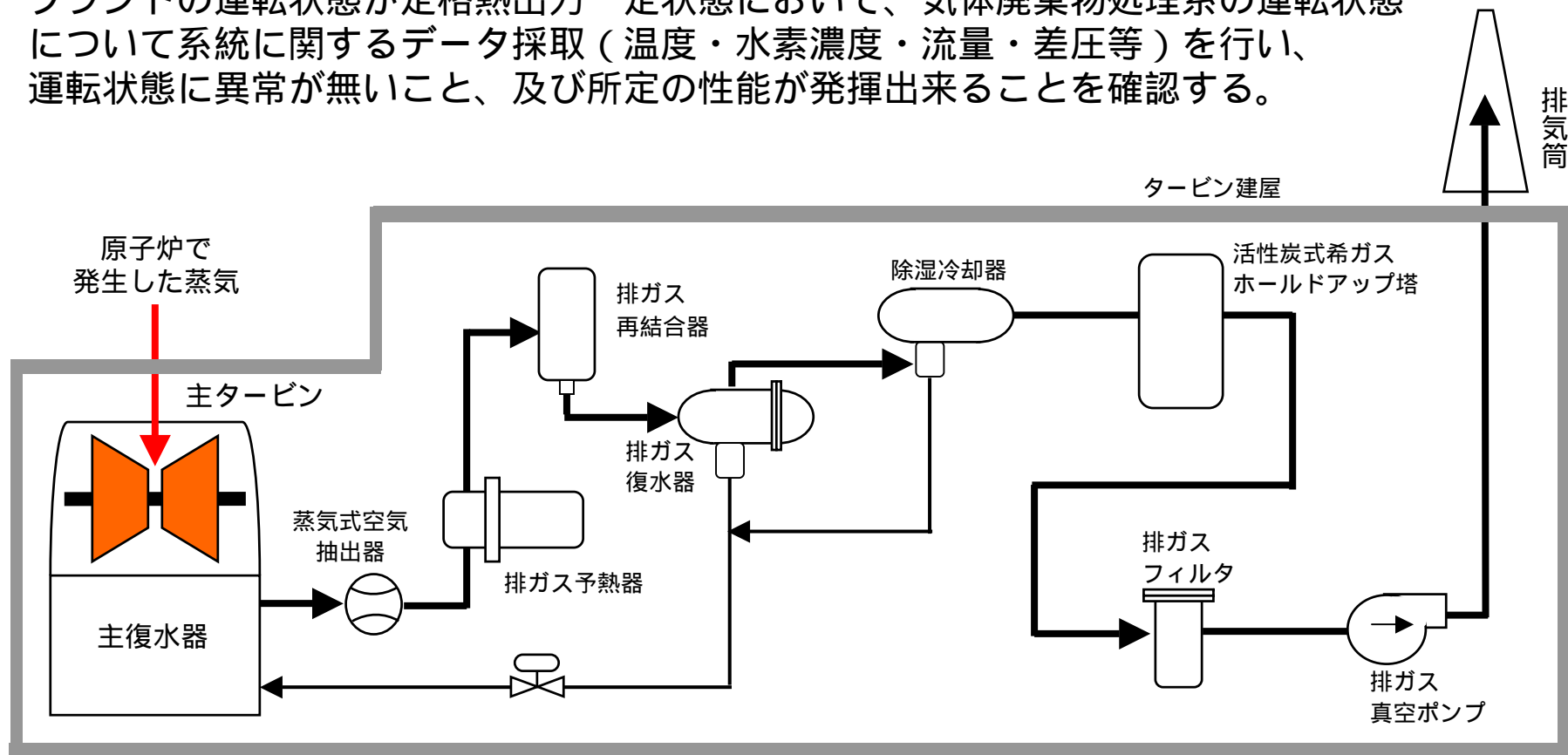
<本系統の役割>

原子炉で発生した蒸気に含まれている排ガス（水素、酸素、希ガス）を適切に処理する。

水素と酸素については、再結合させて水に戻す。また、希ガスについては、時間減衰させて放射能を十分低い状態にする。

<試験の目的>

プラントの運転状態が定格熱出力一定状態において、気体廃棄物処理系の運転状態について系統に関するデータ採取（温度・水素濃度・流量・差圧等）を行い、運転状態に異常が無いこと、及び所定の性能が発揮出来ることを確認する。



次工程 蒸気タービン性能試験（その1）

<本系統の役割>

原子炉で発生した蒸気にて蒸気タービンを回転させ、その回転エネルギーを同軸に直結された発電機に伝達する。

<試験の目的>

プラントの運転状態が定格熱出力一定状態において、蒸気タービン関連設備に関するデータ採取（回転速度・軸受振動・温度・圧力等）を行い、安全かつ安定した運転状態であることを確認する。

